

第1回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録

- 開催日時：令和4年8月29日（月）14:00～16:00
- 開催場所：のいちふれあいセンター2階 研修室
- 出席委員：受田浩之委員長、石丸典男委員、小笠原由美委員、中脇正人委員、森川良奈委員、古川和佳委員、田中愉之委員、立仙裕二委員、國松美紀委員、三浦裕司委員
- 事務局：浜田商工観光課長、岩田地域支援課長、小松農林水産課長、小松こども課長、西内企画財政課長、近藤企画財政課長補佐、中川、宮崎

【次第】

1. 開会
 2. 市長あいさつ
 3. 委員長あいさつ
 4. 委員委嘱および自己紹介

 5. 議事
 - (1) 香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて
 - (2) 令和3年度の目標達成状況（進捗状況シート）及び令和4年度の新たな取り組みについて
 - (3) 「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について
 - (4) 人生支援計画関連施策の今後の取り組み方について
- 事務局
- (1) 香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて
 - (2) 令和3年度の目標達成状況（進捗状況シート）及び令和4年度の新たな取り組みについて説明
 - (3) 「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について説明
- 委員長
- ご覧いただいておりますのとおり資料1が人口ビジョン、香南市の人口をいかに維持していくか、社会増減及び自然増減ということで、現状をデータとしてご紹介していただいた。新しい委員がいらっしゃるので少しだけ補足しておく、この人口を維持、或いは減少を止めていくということに対して、資料2で説明があったような産業的などころ、或いは人生支援計画に相当する暮らしに関すること、こういったところを一つ一つ充実をさせていくことによって、人口の社会増に繋げていくこと、或いは地域に対する魅力をもっと高めていけないかということで、計画を立て実践をしていただいているということになる。一方で、香南市の取り組みの一番の特徴は、資料3で最後にご紹介していただいたように、未来の香南市の担い手である子どもたちを中心に据えて、その子どもたちに対して市の施策をわかりやすく伝えると共に、自ら

が主役であるということを考えていただけるように、小学校6年生、中学校3年生、そして18歳の若者にアンケートを実施している。先ほど前回の委員からのコメントに対して、市の対応を説明いただいた。定点で観測をして、これで3回目になるということは、小学校6年生の時にアンケートに答えた子どもたちが、来年には中学校3年生で同じ質問に答えていく。小学校6年生の時の子どもたちの意見に対して、3年たった香南市はどこまでその子どもたちの声に応えていたかという、経年的な変化を当該の子どもたちを見据えながら、しっかりと描いていけるところまで来たということになる。具体的に先ほど公園、遊ぶ場所というところで、のいち動物公園を実際に引率する大人へパスポートを配布することによってご家族揃っていけるような配慮をされた。こういう所を実際のアンケートの声として、アクションに対するリアクションを具体的に講じている。資料1にどこまで奏効していくかという造りになっているということ、是非ご理解をいただければと思う。そういう意味で、少し時間をかけて全部まとめてご紹介をさせていただいた。さて、ここからは委員の皆様には、それぞれのご関心がある場所がそれぞれ違うと思う。どこからでも構わないので、現状に対してコメントや、今後に向けての改善のご意見を頂戴したいと思う。或いはこれまでの委員の皆様におかれましては、ここまでご発言をされた内容に対して、市の側がどういう風に答えておられるか、それに対する委員の皆様から見た満足度というか、もっとやるべきという意見もあるかもしれませんし、或いはちょっと視点を変えるとこんな考え方もあるのではないかという前向きなご意見を更にいただきたい。

■委員 私の子どもが夜須幼稚園に通っておりますが、資料3-3のアンケートの結果から見えるすがたの、幼稚園夏の給食始めましたのところ。いつも夏休みは私か妻が、お弁当を作っているのですが、今年の夏休みからこの事業が始まるということになりまして、香南市の方に現場の声が届いて、早い対応していただいているのが実感として湧いている。しかし、この話が何年前に出たのかということもある。例えば野市保育所の給食センターでも、コロナの影響により給食がストップしているようですが、やはり働いている方にとっては、明日からお弁当を作らないといけなくなると大変ですので、そういう声が届くということが市民の方にも伝わってきているので、今度は即効性のある声の届き方というか、そういう部隊を作っていただいて市長と市長直結の課において、香南市の小さいこと大きいこともあるが、例えば農家さんの肥料の値上がりしている問題などを早急に解決できる特別部隊を作っていただきたいと思う。神戸市役所の方でそういう部隊が実際ある。それを真似てというか良い所を習って、速攻性のある解決方法を実現していただきたいと思う。

■委員長 まずご評価いただく声、それを踏まえて更に機動的に対応していくご要望もいただいた。何人かの委員の方からコメントをいただいて、それに対して市長や担当課からお話を返していただくようにしたいと思う。保育所のお話も出ましたが、子どもたちに関わっているお立場で関連するご意見があればいただきたい。

■委員 私は保育現場で働いておまして、先日香南市の保育の方の集まりがあった。こども課長にもお世話になっているが、使用済みのおむつを各園で処分するかどうかという議題が出ている。これは先程のお弁当の話にも繋がるが即効性とかそういう方向もすごく大事だとは思いますが、親が責任を持ってどこまで育てていくか、そういう風に対応してくださる行政っていうのは、今すごく表に出てきて良いことだと思うが、一方では根本的に責任を持って子どもを育てていくところとかが薄れていて、あまりに便利になり過ぎて、薄れているのではないかという印象もあるので、何もかも市民が受け身になっていて、また誰かがやってくれるっていうように、なのでちょっと災害に備えてのことだとか、やっぱり個別にそういうものをちゃんと責任持ってやっているかっていうことを気にかけていただけたらと思う。

■委員 私の住居は香美市で、今年子どもが小学校1年生になった。30年振りぐらいに学校に入ったが一番驚いたのが、子どもが使っている教室の椅子に木材が全く使われていないことでした。私たちの時代は足のところに今座っているような椅子のようなもので、お尻を載せるところとか背中を当てる部分は木製であり、そのイメージでしたので、多分座り心地とか何か理由があって変わってきたのだとは思いますが、かなり衝撃を受けた。香美市はすごい森林があって、同じように木製のおもちゃをプレゼントしていこうっていうようなことがあるが、香南市が同じようなことをされているのかを存じ上げてないので、おもちゃとかどどん木を使っていたきたい。子どもが使う家具についても是非林業を助けるっていうことではないかもしれないが、自分たちの住んでいる町の木を使ったものに座って、そんな机で自分たちが学んできたのだということ子どもに伝えていただきたいと思う。

■委員長 それでは3人の委員からご意見やご質問等いただいた。ここで一旦区切って市の担当者や、或いは市長からのご発言をいただきたい。

■事務局 ご意見いただきました夜須幼稚園の件ですけれども、今年の5月末に市長の方に要望がございまして、幼稚園の方に給食がないのでやってもらいたいっていうお話がありました。自分は大分前からそういう要望があったのかというのは知らなくて、今回初めて聞いたのですが、確かに不便をおかけしているということと、それとまた幼稚園と保育所では格差があって、保育所ではあるけれど幼稚園の方にはない、そういったことで幼稚園の利用率も下がっているんで、できるだけ早くと思い今年の夏休みから実行をさせていただいた。即効性のある部隊については、市長のお考えがあるので、意見は控えさせていただく。保育所のおむつの件ですけれども、確かに自分の子どもの便を見て、健康状態を確かめるっていうのはある程度親の義務であるとも感じている。ただ時代も変わってきており、便利さというものもあって、親がどこまで責任をもってもらっていかうかっていうのを、このおむつを親が持って帰るのか、それとも預けるのかどちらを基本としてやっていくのかを今検討しながら、どういう風に進めていく

かということを考えている。

■事務局 ご質問ありました林業のことですが、資料2の2ページ、取り組み状況の左半分の下のところの、山や森林に親しむ機会の提供に出ています。香美市で実施している森からの贈り物事業というのを、香南市でも令和2年度から取り組んでいる。担当者からも説明があったが、香南ケーブルテレビの方で木育Babyという番組にして、実際におもちゃをもらった赤ちゃんが、そのおもちゃで遊んでいる様子についても放送している。木材を利用した備品についても、市内の保育所・幼稚園さらには本年度より市内の認定こども園等にも、木製の備品の贈呈をするようにしており、前後するが去年は子育て支援センターにこなでファーストスプーンづくりを実施した。本年度も10月か11月ぐらいに図書館の方で2回、ファーストスプーンづくりの実施を予定している。森からの贈り物事業については香美市さんと同じ業者さんに、おもちゃを頼んでいるが、単に頼んでいるだけではなく、その業者さんに香南市で搬出された木材を預けて、それで香南市の森からの贈り物事業ということで、名前をつけて実施している。小さい頃から木に親しみを持ってもらい、子どもさん、それから親御さんが、木にふれてもらうことで林業に関心を持っていただきたいということで取り組みをしている。

■市長 それぞれ担当の課長からお答えさせていただいたが、まず1点目の幼稚園の給食については今年の5月、先ほど課長からもお話があったように、ある保護者さんから私と教育長宛に手紙をいただいた。その手紙の中に幼稚園の現状、私も子どもが幼稚園に通っておりましたので存じておりますが、例えば、幼稚園と保育所は似たような機能をしているように一見は見えますが、実際のところは保育所にしか人が集まっていない。昨年度だったと思いますが、幼稚園も預かりの時間を18時に延長している。私もまだ市長ではなかったのですが、それによって増えてくれるのかなと思っておりましたが、実際それほど増えることがなくて、やはりどこがネックといいますとやはり長期の休みの時に、保護者の方もお弁当作らなければならないのがこの選択肢の中に選ばれない大きな理由の一つだったと思う。そこである保護者の方の切実な思いで、ある地域でいくと自動的に3歳から4歳から、年少からは幼稚園に行かざるを得ないとなった時に、お弁当を作る手間というのは、どれだけ大変なことかということをお自身も子育てしており、わかっておりそのことについては課長からもお話があった以前から出ていたテーマですが、この際にやはりできることならお自身正直、来年度からということでもじっくり考えておりましたが、こども課の方でしっかり知恵を絞って、それだったら給食というのが一定以上の給食センター自身の抱える物理的な困難な要件がありまして、食材に対応できない、そうなった時にお弁当でということ、こども課が早期に対応してくれてこの夏に間に合ったということですので、本当に大切なことはこういうことで来年度に、幼稚園をもう一度見直してもらってこの保育所に偏っていた預け先の選択肢が広がればよいなと思っている。それとは一見矛

盾するような形になるが、委員のご指摘の保育所のおむつ事情については、課長からの話があった通りですが、全体として私の考えている子ども真ん中社会じゃありませんが、それをやっていく上で大切なことは、先ほどの幼稚園の給食の件もありましたが物理的にシステムを通して、そしてまたその設備として、子育て環境に対応できるかということが一つと、もう一つ本当に大きいことは考え方であります、まさに私が、例えば給食費を全部市が出したいと正直思っています。しかし、年間1億5000万かかると。その額自体は企画財政課長にお願いしてというところもあります。しかし、私の耳に直接それはやり過ぎだと、払うべき人が払わなければならないという声も私には直接声が届いていますし、先ほどのおむつの件もそうです。その考え方を如何に市として、それでもやるべきか、どこのラインで我々がいったい子育てというものをやっていくのか、社会や地域で子育てをしていく、本当に大きな方向性で来年度からこども家庭庁ができます。それに合わせて私もやりたいことがあります。しかし、できるだけ多くの市民の方々の理解を得るためにどうするか。それはある種トップダウンで私がやるのもできるのかもしれないが、それだと市内で二分してしまう考えが、そういうことができるだけないことを私は望んでいる。各課の職員とも話しますし、市民の方々とも当然話しますし、その中でこのまち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会も、本当にそういったご意見という中で私自身も判断したい。木の活用も同じような考え方だと思う。子どもたちに簡素な安いものではなくて、心のこもったそしてまた目に見える形で実施してあげたい。しかし、それをできるだけ多くの市民の方々の理解を得られるように、私の言葉と行動でどうやって説得していくのか、そのラインっていうのを考えておるところです。そこをご理解いただきながら、しっかりと前に進めたいとは思っている。

- 委員長 機動的に、市民の要望に応じていく場をというお話もありましたがいかがか。

- 市 長 来年度からのことになろうかと思うが、後程説明させていただきます人生支援計画についても、これから終了するという事で新たな体制や新たなやり方というのも考えている。その中にやはり私の中心政策である思いがこもったことに対して、今回はそういう切実な保護者の方の、お手紙いただいて私自身も思っていたことが一致したというところもあり、常々そういった声を拾い上げるといいますか、お聞きする場というのは必要だということを感じている。それはどのような形になるかまだはっきりと明言できませんが考えている。

- 委員長 一通りご回答いただいたので、ここからまた課題に関して違う視点からもご意見をいただきたいと思う。

- 委員 本日初めて参加ということで、皆さんの貴重なご意見を参考にさせていただきたいと思う。私は小さい子どもはおりませんので、子どもの関係は詳しくないので、市長

にちょっとお聞きしたいところですが、今香南市は非常に人口が増加しているのが野市町だけです。このデータを見てもやはり、他の町村は減少しているということで、皆さんもご存知のように、野市町はすごく開発をされてきております。それが異常です。アパートの建設や戸建て住宅の建築により、かなりの面積の農地がなくなってきております。これにつきましては、地元の農家が農地を手放すということもありますけれども、やはり県外や市外の方が持っている土地で作物を作ることができないので、かなり手放している状況が現実です。そういった中、農地法において規制がかかっておりますけれども、その規制の範囲内でかなり農地がなくなっている状況になっている。これは法律上、食い止めることもできませんし、農地はその地主さんの財産でもあります。こういう状況が続いてきている中で市長の考えをお聞きしたい。

■委員長 何人かの委員からコメントいただいて、お答えいただくようにしたいと思う。

■委員 私は委員長にちょっとお聞きしたい。人口増やすのは、もう移住か子どもを生んでもらうしかない。この、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、日本全国津々浦々あるので、その時にこれ人の奪い合いになるのではないかということ、以前委員長に質問させていただいた。これによって、地域が自分たちの地域を把握して、そして数値目標を持ってやることによって、何らかの化学変化が起きるのではないかとっておられたのですが、委員長は内閣府なんかも行っておりますし、色々なことを知っていると思うのですが、その化学変化が今どのように実際起きる兆候があるのか、そういう知見はちょっとお聞きしたいと思う。

■委員 私からは2点、私も農業やっぴましてハウスの横の土地がずっと市外のおじいちゃん、おばあちゃんが耕作されていたのですが、恐らくおじいちゃん、おばあちゃんが具合悪くなって急に来なくなって、おそらく息子さんが県外ナンバーの車だったので、県外に住まれている方だと思っておりますけれども、見事に1年間で耕作放棄地になってしまった。それによって周りの、通常の農業をしている場合でも、草の種が飛んで非常に影響が大きいので、やはり県外に住んでいる方が農地以外に転用する以外にも、農地として維持をしてもらうという意識を向けてもらえるように、早い段階から市としても伝えていただきたいのが1点目。2点目が移住に関することで、先日テレビで島根県の離島だったと思うが、移住してきたい人が農業とか林業とか、水産業などの色々な仕事を1ヶ月ぐらいそれぞれ体験して、自分がやりたいと思ったところに就職をする。その間は市か県が準備をした家に4・5人で共同生活をすると、非常に居住費も抑えられて、楽しみながら移住を検討するっていうプログラムがあり、そういった取り組みが香南市にもあってもいいのかなと思う。

■委員長 委員からご発言をいただいたので、ここで1回区切ってお答えをいただきたいと思う。私の方からも後ほどお答えできる範囲でと思っている。まず農業で特に農地の喪

失、或いは耕作放棄されていって、これをまた目的を変えていくっていうことも在りうるかもしれないけど、何としてでも農地として維持できないのか、こういった考え方、ご意見をいただいた。ここは難しい部分かと思いますが、市長からお答えいただきたい。

■市長 今日午前中に香南市内の田役の方々と、水路の話をお聞きして、ご提案ご提言、そしてまた要望をいただいた。今私、市長になって、もう本当に正直なところ、ある種農業の現実というものを実に見つめなければならないですし、その現実をどうしたらいいのかというのを、本当に突きつけられているのが現状でして、冒頭で委員のご挨拶で、香南市では若い農家さんの担い手が一定育ってきた。それと同時にそれ以上に、まさに辞める予備軍の方が市内の全地域にいることをお聞きしている。それをどう守っていくのか、この行政のスピード感でできる制度を作っていく以上に今、本当に宅地化というのを目的としたと見えるような、農振の様々な手続きが進められており、進める準備を我々より早い手を打たれているのが現状だと思っている。それを今のところ制度を変えて、もう今の段階において、止めるかというところもできない。そして守るためにはどうするか。先程委員のお話もありましたように、どんどん耕作放棄地が増えていって、農業をやりたいけれどもできないような所もあるっていうのを色々聞いている。農業をどう続けてもらうのかということとともに、もう一方で上手にやめていただくための方法っていうのを、今後考えていかなければならない。5年とか10年のことで言うと、たちまち追いつかないので、ここ何年かのうちにその方向や、やり方というのを見つけていかなければならないと思っている。農業に全力ということも思っていますし、産業振興計画でしっかりとその担い手の確保に取り組んでいる農林水産課も当然努力をしているが、それ以上のスピードで進んでいることに対して、どうしていくのかっていうのが正直なところ、まだここで委員に私自身がお答えできる答えは持ってないのですけれど、現状から目を反らさず見つめていきたいですし、その答えを探したいと思いながらやっている途中です。今後も時間だけはどんどん過ぎていきますので、自分なりにしっかりと考えていきたいと思っている。またいろんなご提案をいただけたらと思う。

■委員長 それから委員の2点目は、島根の離島と言えば海士町を思い出すのですが、海士町でしょうか。1ヶ月のお試しで集団でのシェアハウスの共同で、語り合いながらよくあるワーケーションであったり、リモートワークをしながら、よくノマド族という言葉がありますけれども、そういう方々が一定体験をしながら、ここに定住するかどうかを決めていくようなことが、いろんな所で行われています。ご当地においては空き家をリノベーションして、お試しでそこに1ヶ月暮らしていただくというようなこともやっておられるので、ある意味もうすでに着手をしておられるということじゃないかと思う。

■事務局 特定地域づくり事業共同組合制度と想像する。まず、その1次産業の担い手というところが一つ問題点としてある。次には受け入れ先として、仕事の体験をしていただき、産業の維持に繋げていくための問題点がどこにあるのか。移住から考えるのではなく、産業の問題点がどこにあるのか、担い手がないのか、単なるマンパワーが足りないのかといった問題点からの取り組みの一つであると考えている。香南市で今取り組んでいるのは、先ほどのお試し住宅の活用もございりますが、ワーキングホリデーの取り組みとして、受け入れ先の事業者の開拓をしている途中である。昨年度は山北みかんの収穫などの体験という形で行い、本年度は井上ワイナリーさんの方でワーキングホリデーの募集をしている。どのような場所にどのような人が必要なのかという、産業からの視点での問題点も大切だと思っている。今後は更に担い手が足りないのであれば、それこそ人手をデジタルで解消することに繋がるのではないかと考えている。それぞれまち・ひと・しごとの中での仕事と人のマッチングをどのようにやっていくのかというのをしっかり考えていかなければならないと思っている。

■委員長 こういった様々な取り組みを、1718市町村ずっとやっていて、できるだけ住民の方に来ていただくっていうことになれば、ある意味熾烈な競争が全国で展開されている。それに対する抜本的改善は、おっしゃった通り一つは合計特殊出生率を上げていくこと、絶対的な子どもの数を増やしていくことについては、これ私の意見ではないのですけれども、高知県は結構頑張っている方だっていう評価が、方々から専門家の意見として聞こえてくる。さっきも1.33に対して、ご当地では1.53、これは頑張っているということだと思う。もちろん、2.0を大きく超える合計特殊出生率を目指しているというところを踏まえれば、まだまだ伸び自体はそれほど満足できないのかもしれないが頑張っている。もう一方が、日本人だけに頼られないので、移民でいくのだっていう話で、ご存知の通り今日本に住んでいる外国人っていうのは、コロナがあって少し減っているけれども2%である。これを増やしていくと次に見えていくのは大体、これが20%になる世界、これはドイツである。そういう世界をいきなり理想にするかっていうのは相当ハードルが高い。従ってそれを一気にというのは難しいだろうというのが一般的である。ここは耐えながら、更にそれぞれの地域を魅力的に発信して行って、大事なことはご当地に対して非常に魅力を感じ、共感していただく方をやっぱり呼び込んでくることです。化学変化っていうことに対しては、よくある行政的に外の方だけに優遇策を講じて、何とか来てくださってという、今お住まいの住民の方との間で、不協和音が発生する。住民の方自身が、ここは良いと思ひ、人に勧めるぐらいの考え方、或いはシビックプライドが明確にできたところに、外から来られた方が共感して、化学変化が起きて地域における持続可能性のイノベーションが創発されていくっていうことではないかと、私自身はそういう考え方にかけるべきではないかと思っている。そういう意味で、委員がずっと子どもたちに対して、産業振興計画や或いは人生支援計画を通じたまち・ひと・しごと創生総合戦略を、しっかり伝えていくっていう考え方から、資料3に至るわけですけど、私はこの

考え方を根幹の部分で、とても良い方法であり、これしかないのではないかと考える。市長がおっしゃたように、さらに住民の声をしっかり機動的に受けとめられて、そして、先ほど委員がおっしゃったように、親の責任に対してちょっと甘過ぎるのではないかという考え方、やはり夫婦共にお仕事をしておられ、そして理想的には3世代同居とか、そういう形があればいいのですけれども今はそういうことが難しい。そうすると常に不安といろんな状況の変化で、皆さんご苦労されている。その不安を解消していく様々な施策が、ハートフルに講じられているっていうことになってくると、地域の皆さんから、この地域を大切に思う。或いは、ここで暮らすことを勧めていこうという気持ちがどんどん芽生え強くなっていくのではないかなと、そういうふうに私自身は今も思い続けている。なかなか時間はかかるが、市長もずっと子どもを中心というお考えですから、この考え方は微動だにしていけないのではないかと私自身も思っている。

■委員 遊休地の関係でご相談がありました。農家もハウスの周りが遊休地になって、スリップスなどの虫の問題が非常に出てきている。ニラの栽培を行っているが、スリップスが増えて農薬はもう効かない状態になっているというのを聞いている。そういった中で遊休地については、私も農業委員をやっているが、9月に農地パトロールがあるので、そこである程度1年間遊休地の把握もするのですけれども、まず遊休地で困っている場合は地域の農業委員さんに相談してほしい。それと地主さんが幹旋で申請しますと、その農地をあたりたいという希望の方もまた出てくる。私も昨日3ヶ所ぐらい、路地のブロックリーを作りたいとのことで4反5畝ぐらいの田を幹旋した。中にはそういうふうに路地をやってみたいという人もいますので、地域の農業委員さんに相談してほしい。

■委員 私も農業している。遊休農地と耕作放棄地のことは気になっている。有害鳥獣対策事業のことですが、夜須町の方で猟友会に所属をして活動しているが、意見がまとまらないこともあり、そのせいかはわからないが後継者の若い人が増えなくて、これから先どうなるのかと不安がある。猟友会とかそういう集まりで何とかしなくてはいけないとは思っているが、お金とか時間とかも、猟銃を持つことにお金もかかったりするの、後継者が増えない理由だと思う。

■委員長 市の方から有害鳥獣被害に関してコメントをいただきたい。

■事務局 先週の金曜日に、夜須町・野市町・香我美町の狩猟する方に集まっていたき会を行った。なぜ会を行ったかという、今は猟銃や猟銃の玉の値段が上がっているが、その割に有害鳥獣駆除しても、駆除の報奨金があまり高くないと。県下で34市町村の中で市町村の補助金の額は、それぞれ違いはあるが、それ以外で国の交付金がある

が香南市がそれを活用してない数少ない市に入っているの、それを活用するかどうかという話の場が先週の金曜日であった。ただ、国の交付金を使うとなると、たとえば猪を捕ったら体に捕獲日を赤のマーカで記録し、捕獲者が誰であるかなどの添付する書類が面倒くさいので、4・5年前に同じように会をした時には、面倒くさいから国の交付金はいらぬということになっていたが、冒頭にありました物品や燃料の値段が高騰していることにより赤字になるというお話があったので対応をした。結論としては再度、皆さん一人一人に手紙を送って、どうしたいかということを確認することとした。有害鳥獣の狩猟もあるのですが、農地の周りを柵で囲ったり、電気柵やフェンスをしたりするが、フェンスや電気柵っていうのは、農地に入らないようにするだけで、有害鳥獣の数が減るわけではなく抜本的な解決にはならない。以前と比べると人里まで下りてくるケースが増えているので考えなければならない。会の時に提案させていただいたのは、JAさんの方で忌避剤が売られているので、試してみても効果があるようであれば、来年は補助メニューに加えたいと思っている。冒頭にありました狩猟者の後継者問題については、免許取得の補助とかを実施しているのですが飛躍的に伸びているようなことはありません。地区ごとの猟友会さんの中で仲良くしていただいて、後継者を育てていただけたらと考えている。

■委員長 抜本的な話になっていないこういうところこそデジタルの力を何とか利用して、エビデンスを補助の根拠にしていくという話を進めていけば良い。

■委員 まず県外に出た方とかもUターンでやはり地元で暮らしたいとか、ふるさとで暮らしたいとか、香南市の自然とか環境に恵まれていることとか、香南市の良さが十分わかっていると思う。現在娘が関西に住んでおり大学3年生です。もういよいよ就職のことも考えており、高知に帰ってきたいと言っているが、やはり就職先はどうすることになる。企業誘致の促進により高知の企業が増えること。一次産業とか様々な業種の魅力のPR、職場体験のこともあったと思う。私の実家もニラ農家で、見てきていますので委員のように若い方が農業されているのを見たり、体験したり直接お話を聞くと魅力も伝わり、職に就いてみたいということになると思う。水産業でも新規漁業就業者の支援とかもあるというのも知り、いろいろな面で魅力のPRとか直接お話を聞くとかそういうことは良いことだと思う。それともう一つデジタル化については、私どもはインターネット事業もしており、15年前とか10年前と比べてとても早く進んでいる。便利になって知りたいことをすぐ知れたり、発信することや繋がったりすることも、とても便利になっておりとても良いことだと思う。それとは違うが地域の交流が大事なことだと思っている。デジタルの便利さを活用して、地域の繋がりとかが災害時において、地域の交流があるからこそそういう面の大事さとか、また住民の方も地域と繋がって生きがいにもなると思っている。取材で西川地区とか岸本地区の撮影をさせていただいており、どんどん増えていけば良いと思っている。

■委員 同じ行政マンなので、余計なことを言ってしまうと市の皆さんに仕事を増やすことになるのではないかと思います。やはり、こういった計画は一般の市民の方に見ていただき、市が取り組みを進めていることをお知らせすることが大切だと思う。今回計画を策定されるに当たり、人口問題が第一義的にあると思う。いろいろと分析されており、やはり野市町だけが人口が増えているのは、いわゆる都市部ではない所で人口が増えているのは非常に特異なケースで、なぜこういう現象が起きているのか。人口の捉え方で、昼間人口という昼間の仕事をどこでやっていますか、どこで帰って生活の基盤がありますかという考え方ですが、香南市は昼間は高知市や南国市さんの他のエリアに仕事があつてそっちに出かけていますということになるかと思うので、一つの見せ方としてそういう視点も是非市民の方には見せた方がよい。香南市の特徴はこうで、野市町には仕事は高知市近辺で勤める方が野市町に住宅を新築しているといった説明をされた方がいいのかなと思う。もう1点中山間の活性化の取り組みを進めているが、昔は特に山間部に住まわれている方々というのは、移住されて来る方をちょっと拒否する方が多かった。域外の方から来られて、人間関係が難しいという意見もあったが、昨年に県の中山間対策課が、集落調査を実施し、中山間集落のヒアリングをしているが、その回答の中で、今後担い手に外から来ていただき、その地域を盛り上げてもらわないともう無理なのだという意識に変わってきている。昔から考え方が変わってきているのだろうなというふうに受けとめている。Uターンの方とかIターンを進めていかないといけないと、そういったところは委員の皆さんも発言されているように、如何に地域の情報をそういった方々に伝えていくのが重要ですので、こういった取り組みを県や市町村で情報発信して、いろんな機会を押さえ、一般市民の方にも見せていくのが重要だと考えている。

■委員長 市民の方への啓発に軸足を置くことに関して、先ほどのアンケートの切り口を通じて子どもたちに産業振興のあり方、これを直接訴えていくこともやっているのがご当地かと思う。それと昼間夜間人口の数字に関しては、連携中枢都市圏のれんけいこうち広域都市圏の中で、高知市と香南市の対一協定を結んでいるデータがあるので、新しい作業する必要はないと思う。それから中山間の活性化を重点化していくと。私達の大学ではインターンシップの持っている効果が、すごく大きいことをデータとしても掴んでいる。ですから、雇用の場を体験するインターンシップの場、或いはお試しの移住もそうだが、その効果については、特に共感を呼びやすいということ、今日は共有しておきたいと思う。最後にデジタル化について発言いただいた。実は日経グローバルという雑誌があり、そこにDX化の担い手として地域において、ケーブルテレビの役割が極めて大きいという事例と共にいろんなご紹介がある。愛媛県の例が、その中に出ていたと思う。先ほども発言いただいたように、デジタル化に関して地域で最も技術的なことを理解し、また実用化されているのがケーブルテレビである。そのケーブルテレビが地域住民の方とより密接にお話をされることによって、DXの具体的な活用の道、或いは住民の方に対するサービスの提案ができるのではないかな。そういう事例が相当あるということなので、ご当地においてはケーブルテレビが

鍵を握っているっていうところを雑誌で、私自身も感じたところである。まだまだご意見はおありかと思うが、一先ずは議事1から3までは、いろんなご意見をいただき、更にはこの会が終わってからも、このまち・ひと・しごと創生総合戦略はずっと、住民の皆様、そして市長はじめ行政の皆様と、これをテーマにしながら市の活動自体が展開されていくので、区切りは決してないものと思っている。そういう意味で、平常時にご意見を交換していただいて、先ほど機動的な対応というお話もありましたが、是非ご活用いただきたいということで、区切らせていただければ幸いです。今日はもう一つありまして、人生支援計画関連施策の今後の取り組みについて、市長から説明をいただき少し意見交換をと思っている。

- 市長 先程の資料2のまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗シートの中で、人生支援計画の区分のところもあった。人生支援計画というのは、皆様の方が私はご承知だと思うが、平成27年度に策定し取り組んできた。その中で、市民の皆様と行政が一緒になって考えることで、幼年就学期、成年熟年期、高齢期の3つの部会を設けて、課題の洗い出しや、内容の深掘りをして、新たな施策や事業の見直しについて協議し、半年後1年後の施策へと繋げてきたものということである。その中でも色々なことが実際に形になって、市民の皆様にご提供できているということがあるということを承知している。その中で、私が市長に就任しましてゼロベースで様々なことを検証するという中で、人生支援計画についても、関係課長が集まる幹事会で検証、協議をしてきた。その結果本年度をもって人生支援計画は終了することで決定をした。このことは7月に人生支援計画の各部会や、8月19日の人生支援計画策定委員会で、私からも委員の皆様にはご報告をさせていただいた。その中でも委員の皆様からは、先ほど委員長のおっしゃっていただいた、市民の皆様の意見や声というのが、実際に施策に繋がってよかったということのお話があった。一方ではそれぞれの部会によってはこの年代で区切るものですので、課題を絞りきれなかったとか、例えば引きこもりの問題は年齢関係なくすべての年代で、そういった方が実際おられるということで、そういった複数の年代に跨る問題についてなかなか議論しづらいというような問題点も見えてきた。その結果関係各課と検証し、人生支援計画と関連するそれぞれの課において、個別計画があるので、そこでPDCAサイクルの視点で、施策や事業の進捗管理が行われており、人生支援計画の視点を持った取り組みというのが、これまでの行われてきた取り組みによって、定着しているということが、すべての出席関係各課とも認識を共通するところでありましたので、現在取り組み中のものや、課題については今後も担当課を中心に、しっかりと取り組んでいく。資料4をご覧くださいと思う。人生支援に関わる、例えば幼年期の関連計画としては5つの計画がある。それぞれの計画をしっかりと進捗管理をし、更に上位計画である香南市振興計画や、そしてこのまち・ひと・しごと創生総合戦略の目標に向けて取り組む、多くの施策というのを上位計画の視点からも、しっかりと進捗管理をしていきたいということを考えている。なお、各個別の計画につきましては、今後こういった形でこれまでの人生支援

計画に代わり、どういった形で続けていくかということは今、それぞれの課で調整をするようにということで指示をしているところである。人生支援計画がなくなることによって懸念される、市民の皆様にわかりやすく支援策を提供することや、市民の皆様のご意見をお聞きする場がなくなるのではないかという点については、まず第1に各個別計画を充実させた上で、市民の皆様と一緒に取り組んできた人生支援計画を第1歩として、新たな展開を生み出していきたいという風に考えている。当然このまち・ひと・しごと創生総合戦略が上位にあるので、この資料見ていただければお分かりのとおり、しっかりと進捗管理をしておるので、そこに今度は個別の計画としっかりと結びつけてやっていけるようにしていきたいと考えている。

■委員長 人生支援計画、これまでの取り組みを踏まえ今後に向けて市長のお考えをいただいた。先ほど不安の部分、意見があったということではありますが、そこを払拭していただくことと、更にこれまでを超えて充実し、また市民の皆様にとしっかりとコミュニケーションを図っていただくということ、進捗管理をしながらその上位計画である、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会等でも意見交換をしていただくということである。何か他に委員の方からご発言はあるか。

■委員 事務局の方に、最初に資料の説明をしていただいたが、デジタルというところで言うのであれば、この資料をスマホなどに配信していただければ時間短縮にもなると思う。資料は先にいただいているが、委員に限りスマホなどで検索し閲覧できればいいと思う。

■委員長 行政と市民間のコミュニケーションをどのような形で、効率的に時間を使い、活発にしていくか、そういう時に冒頭申し上げたDXというところを頭に置いて、ひと工夫があっても良いのではないかという要望だと思う。そこは行政のDXに立ち足はだかっている問題、それこそを解決しなければDX化は不可能であり、直接ご要望もお聞きいただいて新しい委員の方々が、こうするべきではないかと意見をいただくことが、全体を変えていく一番大きな原動力になる。非常に前向きなご意見ありがとうございます。市の方としてもよろしく願います。人生支援計画関連施策の今後については以上とさせていただきたい。16時過ぎ大変申し訳なかったが、活発な意見交換ができたということの、反映ということで、ご理解いただければ幸いです。

6. その他

(1) 今後の策定委員会のスケジュールについて

7. 閉会